

ひとりから

真宗大谷派青少幼年センター機関紙 『ひとりから』
発行日/2015年7月1日(年4回発行)
発行所/真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp
発行人/青少幼年センター長 木越 渉



蓮ちゃん通信 その①

夏休みは 東本願寺に 泊まろう!

7月末から8月下旬にかけて、「同朋ジュニア大会」や「真宗本願子ども奉仕団」、「真宗本願中学生・高校生奉仕団」が開催されます。ぜひ、お誘いあわせご参加ください♪

詳しくは、

子ども会情報募集中!

“お寺にどう子どもたち”の写真や動画など、子ども会の内容をお寄せください。巻頭写真に採用された方には、東本願寺キャラクターグッズをプレゼントします。

宛先は、「郵送」または「E-mail」
oyc@higashihonganji.or.jp
「ひとりから」子ども会情報係まで



人は愛すべき。
未来は明るく、世界は美しい。

青少幼年スタッフ(機関紙『ひとりから』編集長) 池崎 方子 いけさき まなこ

この言葉と現実とはかけ離れていて、
そのただなかに生きている私たち大人にしてみれば
「あれはいい」「過ぎなご」
でも、なぜか心の隅に引っ掛かっていた。
そして今、目の前のか弱い存在から、
静かにこのフレーズが聞こえてきた。
疑うことを知らず、すべてを委ねてくる。
曇りのない目は真っ直ぐ未来を見つめている。
やがては立ち上がり、どんな世界にあっても、
一歩一歩大地を踏みしめ歩もうとする力を
身体いっぱい秘めているように感じた。
「人は愛すべき。未来は明るく、世界は美しい」
人を信頼できず、未来を悲観し、
世界のあり方に目をそむけようとする私自身へのメッセージ。
子の誕生を「よいこと」と喜び、迎えた者の責任は大きい。
この言葉の表現する世界を共に生きていきたい。



えらばず、きらわす、みすてず

山陽教区
木村 慎



僕のお寺では、4年前から夏休みの子ども会を始めました。夏休みの最初の1週間、ラジオ体操が終わった後にたくさん的小学生たちがお寺に来てくれます。その子ども会でみんなとおしゃべりをしてきたときのことです。

「しんちゃんは結婚してらん？」

「いや、してへんわ」

「なんでせえへんの？」

「うーん、なんでやろ？」

「わかった、モチへんからや」

お寺に来てくれる子どもたちは素直なのか、口が悪いのか、率直な言い方をします。少しだけ傷つきながら、「どつやったらモチるようになるかな？」と聞くと、面白がったみんなが、からかい半分に「髪型変えたら？」「もっとおしゃれになつたら？」「もつちよっこやせたら？」と色々なアドバイスをしてくれました。僕も冗談で、「美容整形でもせなあか

んかなあ？」と言つと、ふいに一人の子が、「しんちゃんはそのままでええと思つて」と返してくれました。たわいのないやりとりの中で、おそらくは何気なく発せられたこの「そのままでいい」という言葉が、僕にとつてはとても大事なことを教えてくれる言葉として強く響いてきました。

僕は日常の中で見た目だけではなく、色々なことで他人と自分を比べています。「あの人と僕とではどつちがカッコいいかな？どつちが賢いかな？どつちが真面目かな？…」とつややつて考えるのは当たり前で、何も悪くないと思つてもいいかもしれませんが、実はこのことが悩みや苦しみの元になっているのです。

僕が最初に出遇った仏さまの教えが、「えらばず、きらわす、みすてず」という竹中智秀先生が阿弥陀さまの心を言い換えられた言葉でした。この言葉に出遇つて初めて、僕は自分自身をえらび、きらい、みすてて生きてきたことを知らされました。人と比べて良い自分と悪い自分とに分けて考え、「悪い自分はダメだから消してしまわなければいけない」、「良い自分である間はみんな

子どもたちと聞く法話

なに好きでいてもらえるけれど、悪い自分になってしまったらみんなに嫌われてしまつんじゃないか、とつややつて考えてしまつことが、自分の中でずっと感じていたしんどい思いの原因であると教えられたのです。そんな僕に、阿弥陀さまは「あなたはあなたのままでいいんだよ」と呼びかけてくれます。どんな自分であっても受け容れてくれる世界がある、ということが僕に大きな安心感を与えてくれました。そして同時に、今まで本当はたいして意味のないことに振り回されて生きてきたことに気付かされ、「本当に大事なことって何だろう？」と考えるきっかけになりました。

みんなも学校では、しっかり勉強して賢い人になりましょう、誰とでも仲良くできる優しい人になりましょう、と教えられると思います。それがもしかしたら、賢い人にならなければダメだ、優しい人にならなければダメだという風に聞こえてしまつてもいいかもしれません。そのことでつらくなつたり苦しなつたりしたときには、阿弥陀さまは、勉強ができなくても、友達とケンカをしてしまつても、君をきらいになつたりみすてたりしないよ」と僕たちにも呼びかけてくれている、そのことを思い出して下さい。そして、「本当の生き方をしてほしい」という願いを聞いて下さい。そこから、本当に安心し

蓮ちゃん通信 その②

あれから70年の夏、絵本で考える平和①

『さがしています』

作：アーサー・ビナード 写真：岡倉禎志（童心社）

1945年8月6日8時15分。ヒロシマの時間は止まったままだ。人々は生き残った。生き抜きたかった。人々に寄り添い生活を共にしていたモノたちは、ずっとあの人たちを探しています。70年の時をこえて…。



て「僕はこのことをやっつけていくんだ」といつことを始めていけるはずですよ。実は、友達も先生もお父さんやお母さんも、みんなに色々な言葉で「そのままでいいんだよ」という阿弥陀さまの「えらばず、きらわす、みすてず」の心を伝えようとしてくれています。その心に出遇つて、本当に自分がしたいこと、しなければならぬこと、できることを見つければいいよ。そして、それを他人と比べず、あせらず、あきらめず、していきましょう。



☆かんたん☆ パラシュートをつかって とばしてみよう!

ひとりからはじめる
イベントレシピ

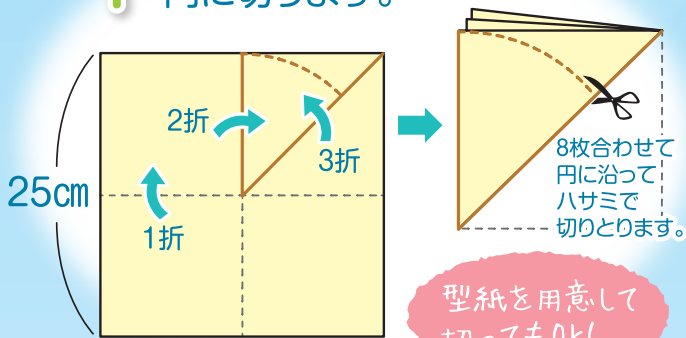


大空になげてたのしめるパラシュートのみんなで思いっきりなげてみよう!

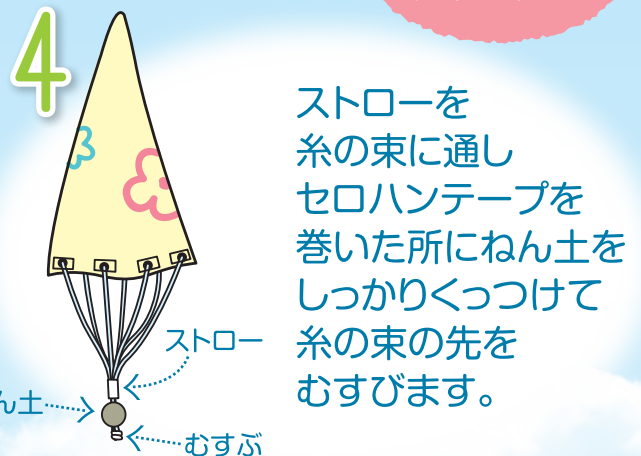
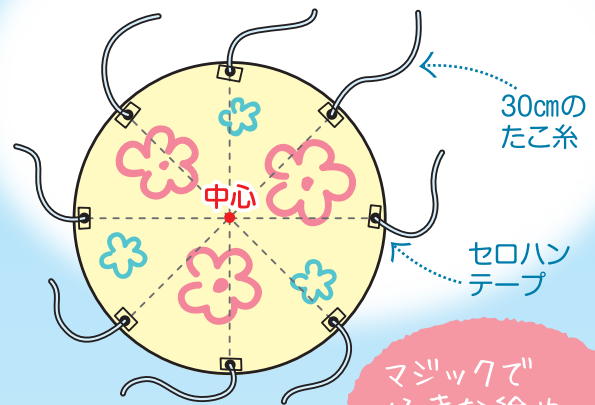
準備 するもの

- ポリ袋 25cm×25cm (厚さ0.02mm) … 1枚
- セロハンテープ
- たこ糸 30cm … 8本
- ねん土 … 直径2.5cmの玉ぐらい
- 油性カラーマジック
- 細めのストロー … 1本

1 ポリ袋を直径25cmの
円に切ります。



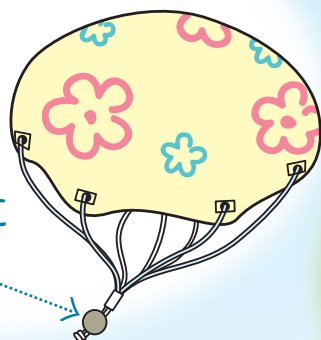
2 8カ所の折り目のところに
セロハンテープで
たこ糸をはさんでとめます。



5 ストローを上下させながら
傘の開き具合を調節します。

なげてみて…

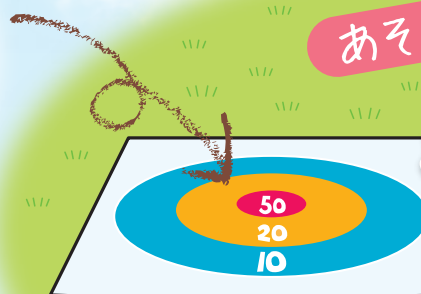
パラシュートが
ゆっくり
おちてくるように
ねん土の量を
調節してみよう。



あそび方

たとえば…

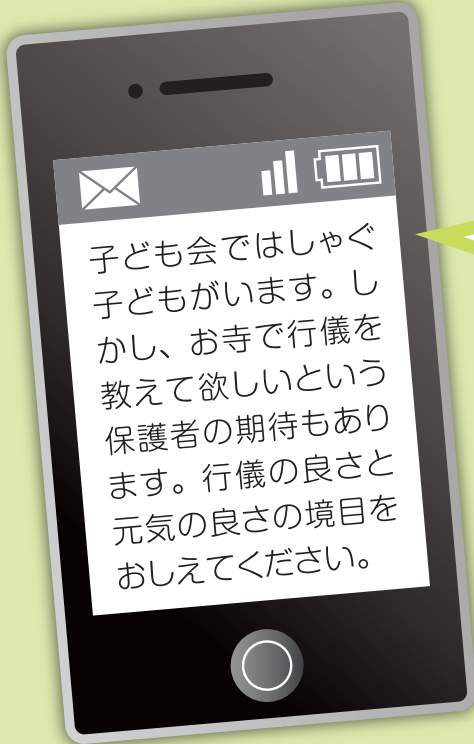
うまく
ターゲットに
おちるかな?



Re:

サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



子ども会ではしゃぐ子どもがいます。しかし、お寺で行儀を教えて欲しいという保護者の期待もあります。行儀の良さや元気の良さを境目をおしえてください。

さがえ なつふみ
佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少幼年センター非常勤嘱託。カウンセラーネーム「サガエさん」です。



「おとな」の姿

ボクは、子どもたちの行儀の良さに、いい子の窮屈さを感じます。また、パワー全開の元気な子どもに圧倒されることもあります。そんなとき、おとなの身勝手さが気になることがあります…。静かでいい子すぎると「もっと元気だして」とつい後押ししてしまいます。ハジけた子どもがパワー全開していると、「もう少し、静かにして」とブレーキをかけることもあります。

子どもたちは、わたしたち「おとな」を直感的に感じ取り行動します。よく遊んでくれて、受け入れてくれる「おとな」には、元気いっぱいにぶつかります。窮屈な「おとな」には、おそろおそろ近づくか、容易に近づきません。子どもたちが、行儀のいい姿を見せるとき、パワー全開のハジけた姿を見せるのは、子どもたちがカガミとなって「おとな」の姿を写しているのかもしれない。

…だとすると、「おとな」の覚悟が問われているのかもしれないね。もし、静粛な場面とハジけていい場面が必要でしたら、静粛な場面づくりが必要ですし、ハジけていいのであれば「あんぜん」「あんしん」の条件づくりをして、子どもたちを自由に解放してあげてはいかがでしょう。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください！

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

蓮ちゃん通信 その③

あれから70年の夏、絵本で考える平和②

『おとうさんのちず』

作：ユリ・シュルヴィッツ
訳：さくま ゆみこ（あすなる書房）

戦争は住まいも着るものも食べものも何もかも奪ってしまう。ひもじいぼくにおとうさんは、パンではなく地図を買ってきた。なんでパンじゃなくて地図?!…でもやっぱり、おとうさんはただしかったのだ。



◎7月1日真宗教化センターしんらん交流館が開所し、青少幼年センターも場所を移し新たなスタートを切りました。4月には全国の児童教化を担当する代表者が集う児童教化教区代表者協議会が行われました。そこで話し合われたのは、一カ寺を現場とした児童教化の場の開設・継続のためのサポート体制です。それぞれが「ひとり」として青少幼年教化に立ち上がるために…。一子等並び語りて寺の縁涼み（青七主幹）

◎「ひとりから」も3年目に入りました。毎週、法話やサガエさんのコーナーから、私たち大人の日常の姿を言い当てられて、ドキッとしています。子ども会は仏の眼差しのおかげで、参加する子どもだけでなく、関わる大人も一緒に解放されていく場所なのだと思います。（編集長）

編集後記

